

阪急阪神ホールディングスグループの SDGs・ESGに対する取組について



阪急阪神ホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部
相良 有希子

阪急阪神ホールディングス グループ

阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズの6社を中核会社とするグループ。都市交通、不動産、エンタテインメント、情報・通信、旅行、国際輸送、ホテルの7つの事業領域をコア事業と位置づけ、幅広く展開している。

阪急阪神東宝グループ

東宝グループ

東宝を中心とするグループ。映画製作・配給・興行、演劇製作・興行の事業を新宿東宝ビル・日比谷シャンテなどの不動産事業が堅実に支え、アニメ製作やDVDソフトの制作・販売、シネマコンプレックス網の拡充にも力を注ぎ、幅広いお客様にエンタテインメントを提供している。

エイチ・ツー・オー リテイリンググループ

持株会社エイチ・ツー・オーリテイリングのもと、関西エリアを中心に、阪急百貨店と阪神百貨店を核とする百貨店、食品スーパー、商業施設、専門店やコンビニエンスストアなどを展開している。

創業者・小林一三



小林一三(1873-1957年)
阪急電鉄・創業者

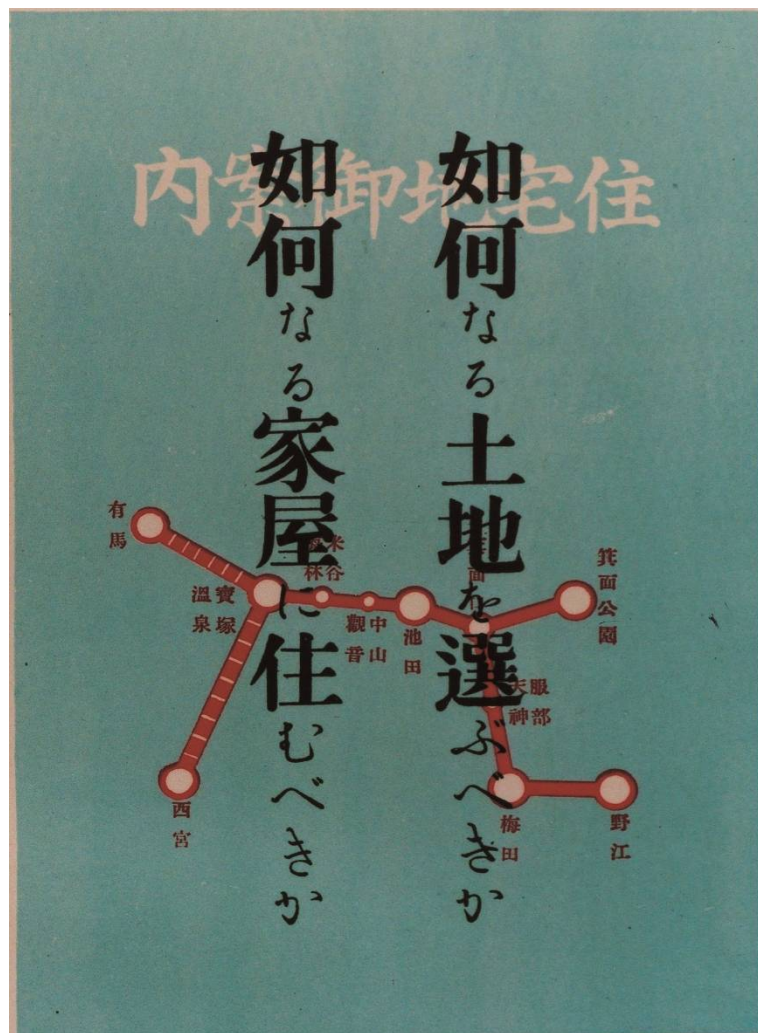
1873（明治6）年、山梨県韮崎市生まれ
19歳で慶應義塾を卒業し、三井銀行へ。
元来、文学青年で小説家志望であったが、
銀行員時代の先輩達との出会いから事業の
面白さに目覚める。

1907（明治40）年、三井銀行を退職し、
箕面有馬電気軌道（現、阪急宝塚線・箕
面線）を創立。

1910（明治43）年運行を開始した電車
事業は、沿線の住宅開発を共に行うという
独創的なアイデアによって好調なスタートと
なった。

一三のユニークな発想から生まれたビジネス
モデルは、私鉄経営を始めとする各地の事業
者達に影響を与えた。

開業当時の時代背景



開業に先立ち土地経営を宣伝するため
発行したパンフレット（1909年）

«1900年(明治33年)頃の大阪市»

急速な工業化、人口増
住環境の悪化

優良な住環境のニーズの高まり

「美しき水の都は昔の夢と消えて、
空暗き煙の都に住む不幸なる
我が大阪市民諸君よ！」（抜粋）

沿線住宅開発

鉄道開業前に沿線を歩いた小林一三は、住宅地に適した土地に恵まれていると考え、輸送需要を増やす方策として、沿線での住宅地経営を構想。

鉄道開業に先立って、住宅予定地を先行買収し、高水準の生活環境を備えた住宅開発を進めた。



池田付近の線路敷設工事（1909年）

「郊外」型ライフスタイル

◆池田室町住宅（1910年6月売り出し開始）

○鉄道を敷設、土地住宅を開発

○「理想的新住宅地」

・舗装道路、街路樹、街路灯の設置

・2階建て5～6室。電灯付き

（電力供給事業を1910年に開始）

○販売方法

・鉄道を敷設し、沿線で住宅開発

・割賦方式による住宅販売



当社初の土地住宅分譲

（池田室町住宅地 1910年）

⇒民鉄初

⇒日本初

大きな反響を呼び早々に完売。住宅地経営拡大

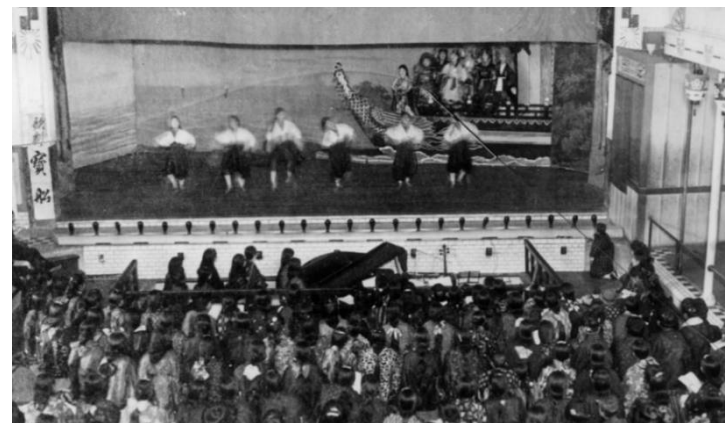
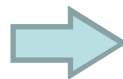
自然に恵まれた「郊外」でお洒落・快適・経済的な
最新のライフスタイルの提案と居住促進

宝塚少女歌劇から宝塚歌劇団の創設へ

1914年 4月 宝塚少女歌劇 初演 (室内プールの有効活用)



宝塚新温泉に
日本初の
室内プールを
つくった!



宝塚少女歌劇初演「ドンブラコ」
おとぎばなし・桃太郎鬼退治を題材とした歌劇



現在の宝塚大劇場公演

©宝塚歌劇団

阪急百貨店の開業

1929年 梅田阪急ビル完成
(地下2階、地上8階) **阪急百貨店開業**

世界初!
駅とつながっている
デパートをつくった

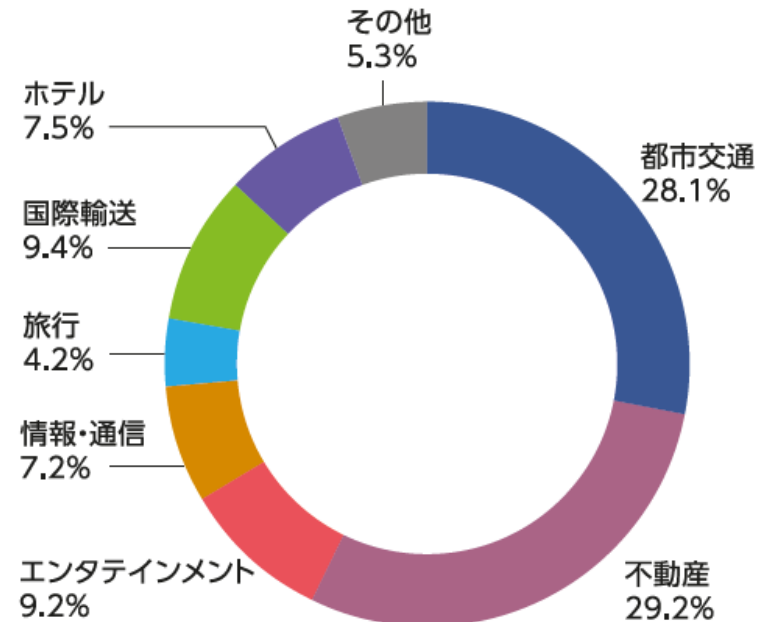


現在の阪急百貨店

阪急阪神ホールディングスグループについて



営業収益の構成比（2020年3月期）



中核 6 社が 7 つのコア事業を推進する企業グループ

連結売上高：7,627億円（2020年3月期）

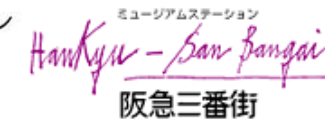
連結従業員数：22,654人（同上）

グループ会社数：106社5団体（同上・海外含）

創立：1907年10月

阪急阪神ホールディングスグループについて

- **都市交通**：鉄道、バス、タクシー、車両製造・整備、流通（コンビニエンスストア、雑貨）、広告代理店 等
- **不動産**：不動産開発、賃貸、分譲、商業施設運営、不動産管理、REIT 等
- **エンタテインメント・コミュニケーション**：歌劇団、劇場運営、プロ野球球団、野球場運営、ライブハウス、出版、フィットネス、ケーブルテレビ局 等
- **旅行**：旅行業 等
- **国際輸送**：国際貨物輸送 等
- **ホテル**：ホテル、レストラン 等
- **その他**：クレジットカード、造園、システム開発、コミュニティFM局 等



1. 「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」

グループ社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」

重要テーマを横断するサステナビリティ推進活動

阪急阪神ホールディングスグループ全体で、さらなる社会・地域への貢献活動を推進するため、2009年4月より開始したグループ横断の社会貢献プロジェクト

【基本方針】

阪急阪神沿線を中心に、
私たち一人ひとりが関わる地域において、
「未来にわたり住みたいまち」
をつくることを目指します。

【重点領域】

「地域環境づくり」

地域コミュニティが
安全・安心かつ文化的で、
環境に配慮しながら
発展する
持続可能なまちづくり

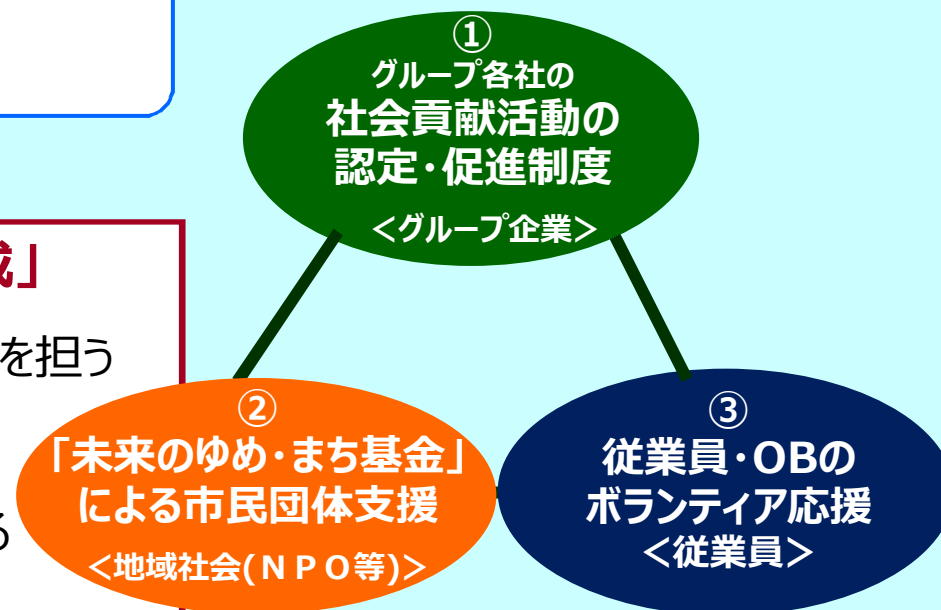
「次世代の育成」

未来の地域社会を担う
子ども達が、
夢を持って
健やかに成長する
機会を創出



シンボルマーク

【3つの協働】





①グループ各社における社会貢献活動の認定・促進制度

短期業績に結びつきにくい活動を、**ブランド価値向上の観点から当社が共に行う**ことで、景気に左右されずに、**活動の継続と発展**を図る。

毎年、グループ各社から、プロジェクトへの認定案件を募集。
年間約100件

認定された活動へは広報、協賛、上乗せ寄付（マッチングギフト）を通じて、協力する。

【広報】

グループ広告媒体等を活用し、各社の活動をPR



ポスター



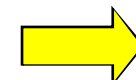
沿線情報紙 (TOKK等)



【上乗せ寄付】

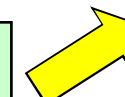
各社からの寄付と同額を阪急阪神HDからも寄付

グループ各社



寄付先

阪急阪神HD



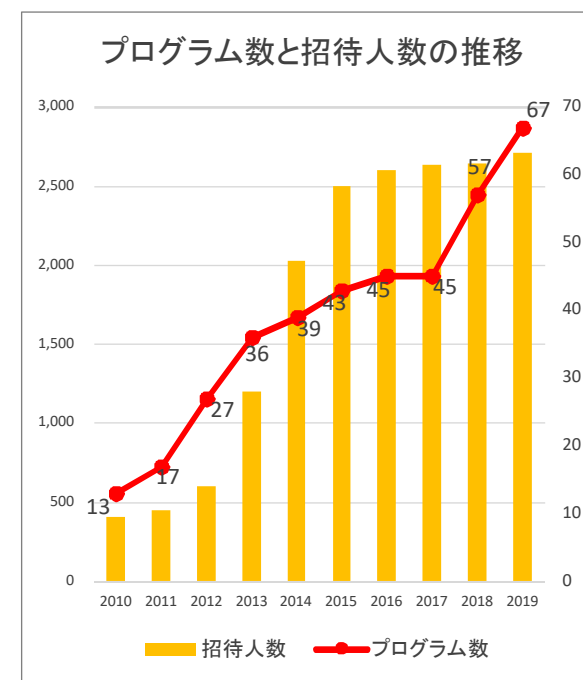
【協賛】各社の取組に対し阪急阪神ホールディングスも協賛として共に参加

体験学習型プログラム

「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」



- ・2010年より、都市交通・不動産・エンタテインメント・ホテル等、多岐にわたるグループの実際の事業現場で、夏休みに小学生が様々な仕事にチャレンジする体験学習プログラムを、鉄道沿線市町の教育委員会の後援を受けて展開。



- ・2019年は、36社・67プログラムに小学生2,707名を無料で招待。(応募数24,722名)
- ・2019年度末までで累計389プログラムに約17,751名を招待し、生きた学びの機会を提供。
- 【受賞歴】2017年度経済産業省「キャリア教育アワード」における経済産業大臣賞（大賞）受賞、令和2年度文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」文部科学大臣賞 他多数

出張授業型キャリア教育プログラム

「阪急 ゆめ・まち わくわくWORKプログラム」



阪急電鉄の創業者である小林一三が、どのような苦勞と工夫を重ねてまちの発展に尽力してきたかを学ぶとともに、身近なまちを支えるさまざまな仕事と児童自身の興味とのつながりに気づく、小学校高学年向けのキャリア教育プログラム。阪急電鉄の課長職が講師として学校に出向く出張授業として実施。



- ・2019年度は、63校・5,473名の小学生に授業を実施。
- ・2019年度末累計194校、約16,537名の小学生に、さまざまな仕事への関心を高める機会を提供。

②「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」による市民団体支援

- ・「地域環境づくり」や「次世代育成」をテーマに活動している阪急阪神沿線の市民団体を、当社とグループ従業員が一体となって応援する。
- ・毎秋、公募により助成対象団体を決定。（過去12回実施）

特徴：

(1) エリア限定

阪急阪神沿線での活動に特化

(2) 従業員と会社の協働プログラム

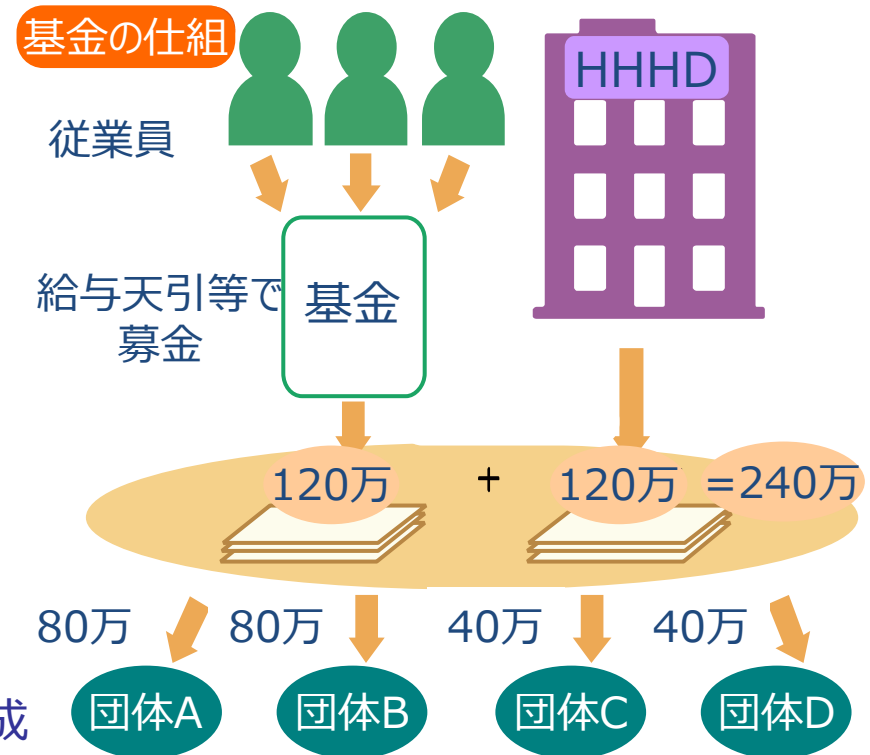
助成金の原資の半額はグループ従業員の募金

助成先選考も従業員代表と会社代表で

(3) SDGs の目標 4、11 を目指す活動を助成

第10回以降は、特に、SDGs の目標 4・11 に

関わる分野で、目標17を意識した活動を重視して選考



【募金への参加状況】 68社 1,519名(2020年12月末時点)

【助成団体数・助成額】 10年間で149団体 8,806万円

ゆめ・まち基金 助成対象市民団体 (一部抜粋)

地域環境づくり



環境保全型農業等の持続可能な地域社会づくり (こども環境活動支援協会・西宮市)



資源循環たい肥を活用した環境活動 (花と緑のネットワークとよなか・豊中市)



アートの力を活かした防災プログラムの企画・運営 (プラス・アーツ・神戸市)



間伐や植林など市民参加の森林整備・担い手育成 (日本森林ボランティア協会・大阪市)



森・川・海・まちを一体と捉えた自然再生活動と環境教育 (豊かな森川海を育てる会・神戸市)



ゆめ・まち基金 助成対象市民団体 (一部抜粋)

次世代の育成



主体性・自律性を育てるオルタナティブ
スクール (コクレオの森・箕面市)



ひとり親家庭の子ども達も通いやすい学習
塾の運営 (あつとすくーる・箕面市)



外国にルーツを持つ子ども達や
家族の教育支援 (おおさか子ども
多文化センター・大阪市)



地域で子ども達と考える居場所
づくり (山科醍醐子どものひろば・
京都市)



全国初・公設民営のフリースクール
(トイボックス・大阪市)

SDGsトレイン「未来のゆめ・まち号」の運行

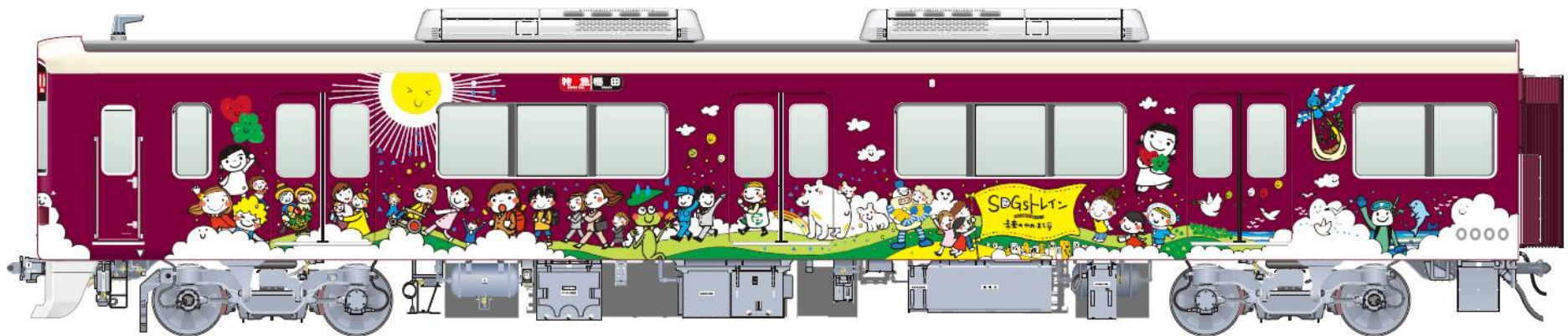


(上)東急グループと東西で運行する「SDGsトレイン2020」の出発記念セミナー(車両撮影会)

(左)首相官邸でのジャパンSDGsアワード表彰式

- ・ゆめ・まちプロジェクトの10周年を記念して、阪急電鉄・阪神電気鉄道で、SDGsの達成に向けたメッセージを発信する列車を2019年5月から運行。
- ・国連や外務省・沿線自治体・企業・市民団体等と協働し、列車のラッピングや車内の広告スペースすべてを、SDGsに関する各団体の取組やSDGsについて学べるポスター・ステッカー等に統一。SDGsの認知度の向上に努め、持続可能な未来を創造するきっかけとなることを目指している。
- ・さらに、昨年9月から東急グループにご参画いただき、東西共通のヘッドマークを掲げ、実質的に再エネ100%の電力で運行している。
 - 企画監修：SDGs市民社会ネットワーク ■ 後援：外務省、環境省、国連広報センター
 - 協賛：花王、関西電力、サントリーホールディングス、積水ハウス、大和証券グループ本社、竹中工務店、凸版印刷
- ・2020年12月に第4回ジャパンSDGsアワード特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞。

SDGsトレイン「未来のゆめ・まち号」の運行車両



- ・阪急(3編成)・阪神(1編成)は、最新の省エネ車両を使用するとともに、**関西電力の「再エネECOプラン」(※)を活用し、実質的に再生可能エネルギー100%で運行。**

(※)関西電力が日本卸電力取引所より調達した、太陽光・水力・風力発電などに由来する環境価値を付加した電気を使用するプラン



【阪急電鉄の運行車両】

神戸線・宝塚線1000系、京都線1300系車両 各1編成(8両編成)

- ・1000系・1300系車両は、高効率のVVVFインバータ制御装置、モーターのほか、前照灯を含むすべての照明機器にLED照明を採用。
- ・**従来型(5000系、6000系などの電力回生ブレーキ非搭載車)よりも約50%、前形式(9000系)と比べても約20%の消費電力削減を実現**するとともに、低騒音の全閉式モーターや駆動装置、側窓にUVカット複層ガラスを採用することにより、車内外の騒音を低減。

「SDGsトレイン」車内ポスター①

車内の広告スペースは、すべてSDGsに関わるものに統一。SDGsの解説はSDGs市民社会ネットワークの企画・監修のもと協働で制作し、クイズやインパクトのある数字、具体的なアクションの提案などで解説。



■ 国や国連・沿線自治体・市民団体のポスターは無料で掲載。企業のポスターと合わせ、多様な主体がSDGsの達成に向けて努力していることを発信。



<外務省>



<環境省>



<国連広報センター>



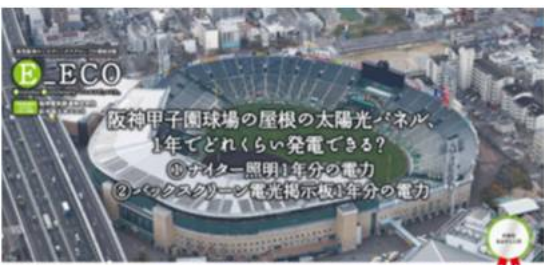
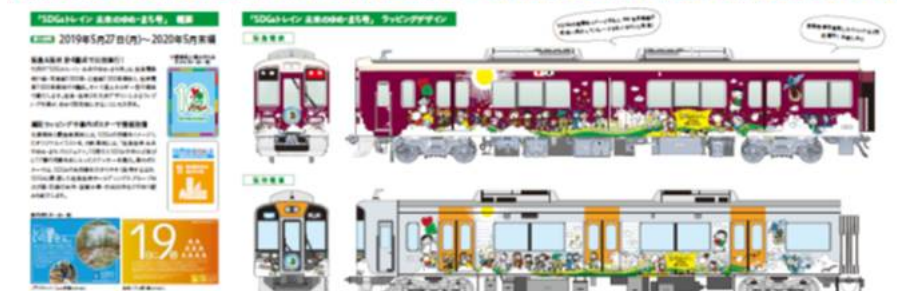
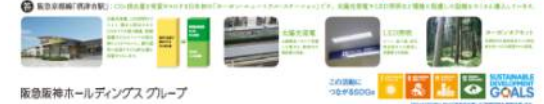
<JICA関西>

「SDGsトレイン」車内ポスター②・沿線情報誌

■ 当社グループのSDGsに貢献する活動や、当社がこれまで助成した市民団体のSDGsの達成につながる活動を紹介します。すべての車内吊ポスターは、WEBサイトで拡大して閲覧できる。



■ 駅や沿線の商業施設で配布する沿線情報誌では、SDGsトレインや目標の解説を紹介。



沿線情報誌「TOKK」に年に4回掲載。阪急電鉄の全駅・商業施設等に各30万部配架。

「SDGsトレイン」を活用した子ども達の教育支援



「SDGsトレインで出かけよう！ オリジナルヘッドマーク作り」

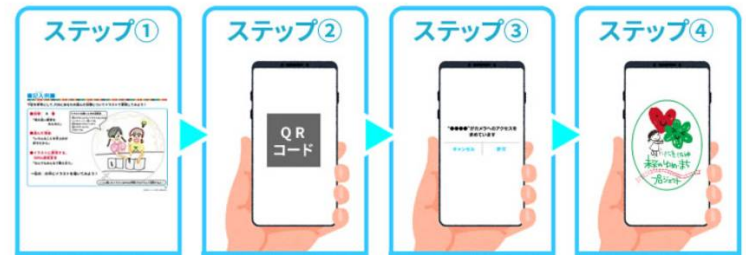
阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊2019(※)の1プログラムとして実施。SDGsトレインの阪急電車を貸し切り、阪急西宮車庫まで参加者を乗せて運行。車内でSDGsについて学んだあと、各々選んだ目標をテーマにイラストを描き、チーム毎にヘッドマークを制作。完成したものを本物の電車に掲げて写真撮影を行った。

- ・2019年7月25日（木）開催
- ・参加者数：子ども96名、保護者93名



特別プログラム イラストを描いてオリジナルSDGsヘッドマークを作ろう！

SDGsの目標を達成するために、“普段から自分ができること（SDGs達成宣言）”を考え、ドリルの指定枠内にイラストを描いてください。スマートフォンを活用して、描いたイラストがSDGsトレインのヘッドマークになるフォトフレームをお楽しみいただけます。



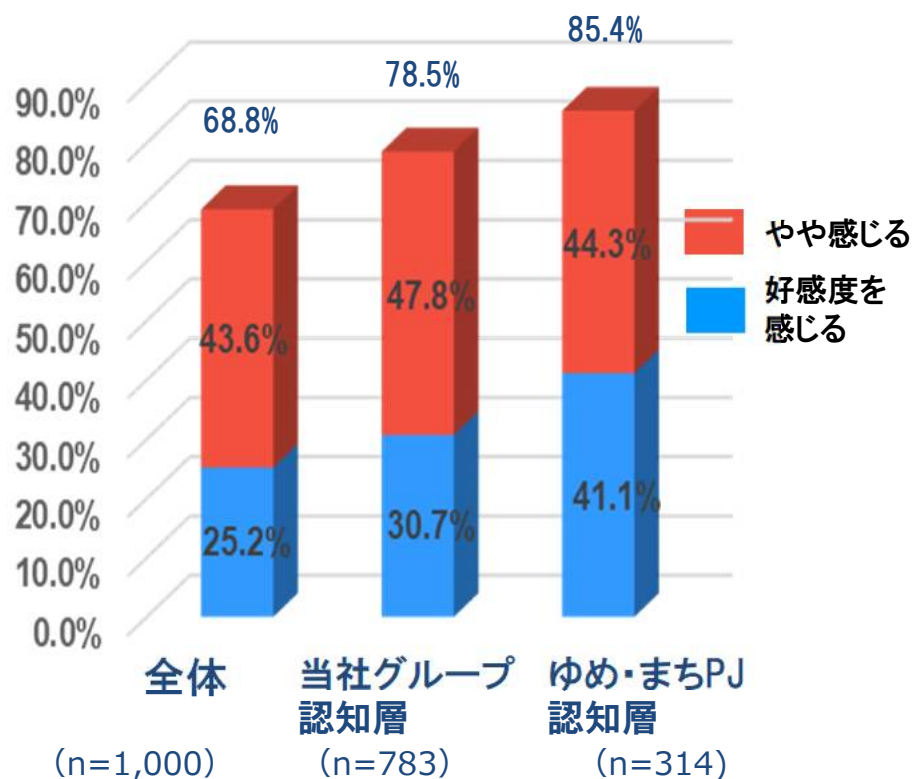
「ゆめ・まちSDGsドリル」

SDGsトレインに掲出しているポスターを活用し、子ども達が楽しくSDGsを学べるオンラインコンテンツを提供。映像や年齢に応じたレベル別のコンテンツを無料で視聴したりダウンロードできる。

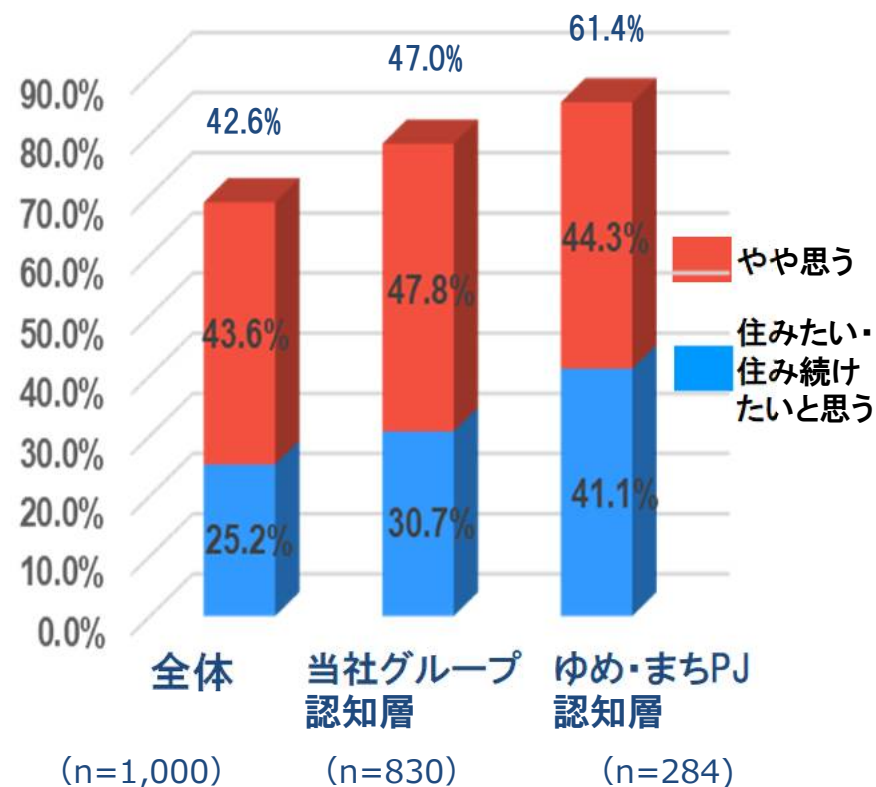
お客様アンケート調査①

ゆめ・まちプロジェクトを認知する層ほど、当社グループへの好感度、阪急阪神沿線の居留意向が高くなる。

当社グループの好感度



阪急阪神沿線への居留意向



回答者：京阪神沿線23市町在住の18～69歳・男女
調査方法：上記対象1,000人（無作為抽出）に対するネット調査
調査期間：2019年11月7～8日

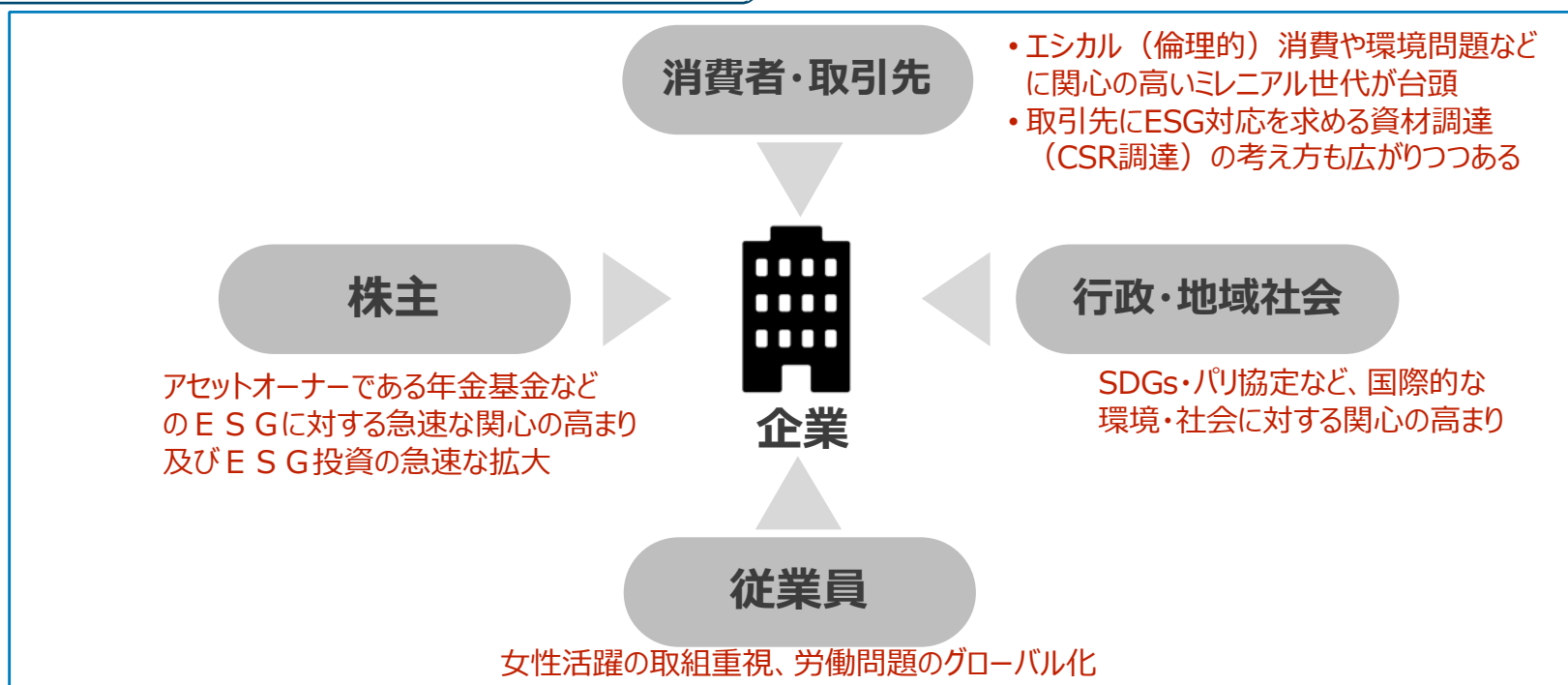
- ・今後も子ども達に夢を抱かせる試みを続け、**沿線地域に根差した、まちを発展させるような夢のある良いプロジェクトとなることを期待**します。（20代男性）
- ・プロジェクトは以前から知っていましたが、取組内容も充実していて、表に見えれば見えるほど自分の住むまちが好きになりますし、**引っ越すとしても阪急・阪神沿線で選ぼうという気持ち**になります。（30代女性）
- ・**将来のよりよい阪急阪神沿線を創造するため**に、ぜひ活動を頑張ってくださいたいです。（40代男性）
- ・いろいろな活動が行われていることを知り、感動しました。これからも、**このプロジェクトへの共感の輪が大きく広がっていくことを願っています**。（50代女性）

2. 「阪急阪神ホールディングスグループ サステナビリティ宣言」

企業へサステナビリティ対応を求める動きが加速

- 気候変動や開発途上国の成長に伴う資源不足、貧富の格差の拡大などの社会課題の深刻化により、各ステークホルダー(消費者・取引先・行政・地域社会・従業員・株主等)は企業のサステナビリティへの取組に高い関心を持つようになってきている。

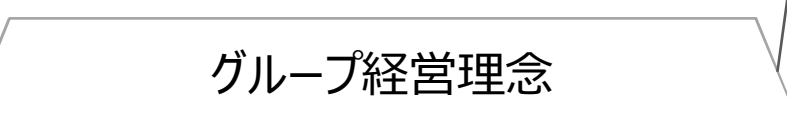
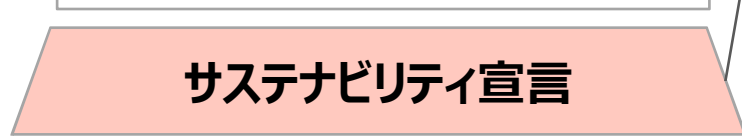
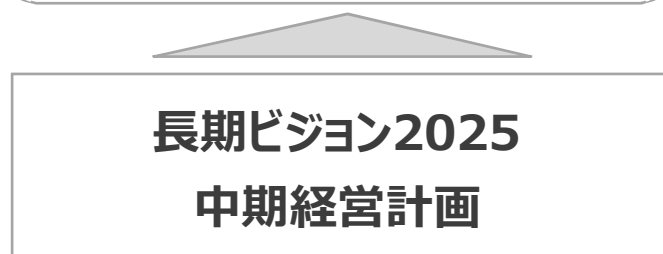
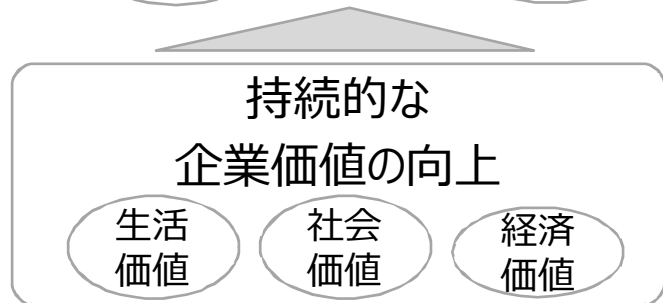
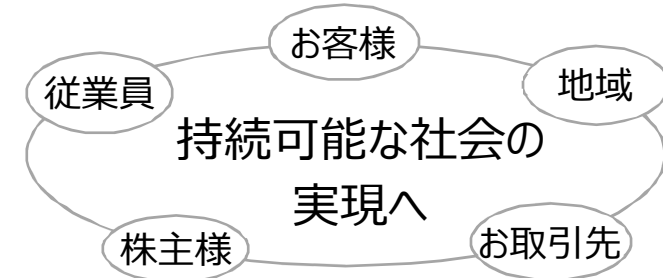
各ステークホルダーのサステナビリティへの関心の高まり



➡ 各ステークホルダーからの信頼確保のため、企業にはサステナビリティ対応が求められる

阪急阪神ホールディングスグループ° サステナビリティ宣言の位置づけ

- 当社グループでは、これまでもESG（環境・社会・企業統治）に関して様々な取組を実施してきた。
- そうした中で2020年5月、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向け、今後の取組の方向性を示すものとして「サステナビリティ宣言」を策定し、これをベースにサステナブル経営をさらに推し進めていく。



当社グループの持続的成長に向けたビジョン・戦略及びそれを実現するための具体的な実行計画

当社グループが持続的成長を目指していくにあたり、ベース(基盤・前提)となるもの

- ① 基本方針
- ② 重要テーマ (マテリアリティ)と各テーマの取組方針
- ③ 具体的な取組の方向性と④主な非財務の指標

社会における当社グループの存在意義

使命 「安心・快適」、そして「夢・感動」をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献します。

その一部を具体化したものが「サステナビリティ宣言」

サステナビリティ宣言： ①基本方針、②重要テーマと取組方針

①サステナビリティ宣言（基本方針）

当社グループがサステナブル経営を進める上で、目指す社会を描いた宣言文

～ 暮らしを支える「安心・快適」、暮らしを彩る「夢・感動」を、未来へ ～

私たちは、100年以上積み重ねてきた「まちづくり」・「ひとづくり」を未来へつなぎ、地球環境をはじめとする社会課題の解決に主体的に関わりながら、すべての人々が豊かさと喜びを実感でき、次世代が夢を持って成長できる社会の実現に貢献します。

②重要テーマ(マテリアリティ)

当社グループがサステナブル経営を進める上で、重きを置く6つのテーマ

テーマ

取組方針

 <p>安全・安心の追求</p>		<p>鉄道をはじめ、安全で災害に強いインフラの構築を目指すとともに、誰もが安心して利用できる施設・サービスを日々追求していきます。</p>
 <p>豊かなまちづくり</p>		<p>自然や文化と共に、人々がいきいきと集い・働き・住み続けたいくなるまちづくりを進めます。</p>
 <p>未来へつながる暮らしの提案</p>		<p>未来志向のライフスタイルを提案し、日々の暮らしに快適さと感動を創出します。</p>
 <p>一人ひとりの活躍</p>		<p>多様な個性や能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するとともに、広く社会の次世代の育成にも取り組みます。</p>
 <p>環境保全の推進</p>		<p>低炭素社会や循環型社会に資する環境保全活動を推進します。</p>
 <p>ガバナンスの充実</p>		<p>すべてのステークホルダーの期待に応え、誠実で公正なガバナンスを徹底します。</p>

当社グループの重要テーマと関連するSDGs

重要テーマに沿って事業を推進し、SDGsの達成に貢献



重要テーマ1.「安全・安心の追求」 主な取組事例

激甚化する自然災害への対応

鉄道各社では、防災・減災への取組として、水害対策や耐震補強などハード面での対応のほか、計画運休の方針策定やお客様への情報発信の強化などソフト面の取組にも注力している。

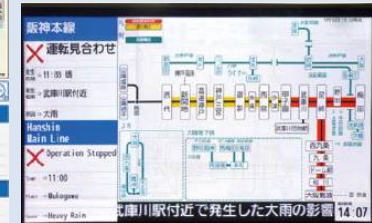
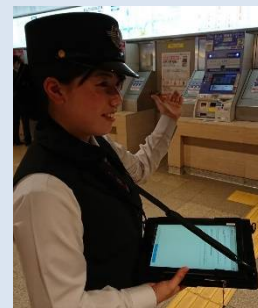
<主なハード面の対策>

- 土砂崩れ防止のための法面改良工事
- 耐震補強工事
- ブロック塀の撤去
- 地下駅・車庫の浸水対策
- 計測機器（地震計・雨量計等）の増設



<主なソフト面の対策>

- 災害時の避難誘導における社員応援体制
- 情報発信のタイムライン策定
- 異常時における情報提供の充実・多言語対応の実施（ホームページ、案内ディスプレイ、運行情報アプリ、Twitter等）



防災・減災に向けた取組の推進と災害発生時の迅速かつ適切な対応

重要テーマ2. 「豊かなまちづくり」 主な取組事例

西宮北口駅周辺のまちづくり

・阪急電鉄では、西宮北口駅周辺のまちづくりとして、2008年に大規模商業施設「阪急西宮ガーデンズ本館」をオープンし、それ以降、同別館、同ゲート館を順次開業したほか、兵庫県立芸術文化センターや大学をはじめとする文化・教育施設を誘致するなど、同駅エリアの魅力や利便性の向上を図るとともに、数多くの良質な住まいを提供し、エリアの価値向上に継続して取り組んでいます。

・こうしたまちづくりが多くの方々から支持されて、西宮北口駅エリアは、関西の「住んでみたい街アンケート」において5年連続で1位の評価を受けています。



ジオタワー西宮北口(2008年竣工)



阪急西宮ガーデンズ ゲート館
(2019年11月開業)



複合SC 阪急西宮ガーデンズ



兵庫県立芸術文化センター(2005年竣工)



甲南大学(2009年4月開校)



良質な住環境の整備 (優良な住宅の供給、緑地や公共スペースの整備、文化・教育施設などの充実)

重要テーマ3. 「未来へつながる暮らしの提案」 主な取組事例



あんしんサービス「ミマモルメ」

ミマモルメは、校門に設置したセンサーとICタグが連動して、こども達の登下校の状況をアプリで知らせるサービス。

ICタグを持ったお子様が校門に設置されたトリガーコイルの上を通過すると、ICタグが起動して電波を発信し、受信アンテナがその情報をキャッチします。予め保護者が登録した専用のスマホアプリやメールアドレスに、校門通過情報が自動で通知されます（2021年3月現在、約1,400の学校・園で導入されています）。

さらに、この仕組みを活用して、自治体などと連携を図ることにより、高齢者を含めたまちの見守りサービス「まちなかミマモルメ」も展開しています。



ICタグによるノンタッチ式だから、確実にメールが届いて安心。プライバシーも守られます。

- ICタグは軽量&コンパクト。
- ICタグは自転車競技用の精度の高い技術を活用。読み漏れや誤作動の心配がありません。
- メールアドレスはお子様お1人につき4つまで登録可能です。

受信アンテナ (ICタグを読み取り)

登下校時、校門を通過すると同時にメールを自動配信!

ICタグはランドセルに入れたままでOK

トリガーコイル (ICタグを起動)

※発信する電波は、当施設内の基準値以下のため健康への影響はありません。

メールアドレスの変更・削除は下記URLからログインを行ってください。
ID: PFLANK
ID: https://loginmimamoru-me-mail.jp/occc/
https://loginmimamoru-me-mail.jp/occc/

※なお、本メールは自動送信の為、返信できません。

※実際メールイメージ

ホッとあんしん!

ICTイノベーションを活かした既存サービスの改善と新規ビジネスの創出

重要テーマ4. 「一人ひとりの活躍」 主な取組事例

従業員満足度調査の実施

2021年度から、中核6社揃って従業員満足度調査を隔年で実施します。

仕事・職場・上司・会社などについての認識や意見を従業員から聞き取ることで、職場環境の改善等に役立てていきます。継続的に前回調査を上回ることを目標に掲げました。

働きがいの向上および労働環境の整備

健康宣言に基づく健康経営の取組

2018年に発表した「グループ健康宣言」に基づき、一人ひとりの健康意識の向上と働きやすい職場の実現を推進しています。

特定保健指導実施率と喫煙率を指標として設定しました。



健康経営の推進

女性の活躍推進

当社及び中核6社は「女性活躍推進法に基づく行動計画」を策定し、積極的に女性活躍に取り組んできたなか、「サステナビリティ宣言」において、女性管理職比率と新規採用者に占める女性比率、男性育休取得率※の指標を定めました。



ダイバーシティの推進

ハラスメント防止のための人権研修の実施

ハラスメント防止をテーマとする人権研修をグループ従業員に実施しています。当社グループの経営トップを対象とした会議での研修や取締役・管理職昇格者向けの研修、新入社員研修などです。HD主催の階層別人権研修受講率100%が目標です。

人権の尊重およびハラスメントの防止

重要テーマ5. 「環境保全の推進」 主な取組事例



阪神甲子園球場の環境配慮の取組

● 太陽光発電

阪神甲子園球場は、内野スタンド全体を覆う「銀傘」の上に太陽光発電設備を設置し、2010年3月から稼働しています。
発電電力量：年間約193,000kwh
(阪神甲子園球場で1年間に行うナイトゲームで使用するナイター照明の電力量に相当)



● プラカップリサイクル

阪神甲子園球場は、帝人フロンティア(株)と共同で、生ビールなどの販売に使用するプラカップをリサイクルしています。専用回収カート等で回収したカップはポリエステル繊維に再生され、ノベルティとして提供されています。



● 井戸水・雨水の活用

グラウンド散水や場内トイレ洗浄水に活用。

再生可能エネルギー（太陽光発電など）の活用／廃棄物発生抑制及びリサイクルの推進

重要テーマ5.「環境保全の推進」主な取組事例



不動産事業におけるグリーンビルディングの認証取得の促進

日本政策投資銀行(DBJ)のGreen Building認証やCASBEE大阪（大阪市建築物総合環境評価制度）など、環境・社会への配慮がなされたと評価される不動産物件の拡大に取り組んでいます。



HEPファイブ



阪急西宮
ガーデンズ

大阪梅田
ツインタワーズ・サウス



当社グループの重要テーマと関連するSDGs

生活のさまざまなシーンに関わる企業グループとして、
ステークホルダーの皆さまと一緒に持続可能な社会の実現を目指します。



だれもが利用しやすい住宅・緑地・
公共スペース等の確保、持続可能
な都市化の促進、文化・自然遺産
の保護、都市と農村のつながり支
援、海や陸の生態系の保全など



性別・年齢・障がい等を問わない
働きがい・生産性の向上、安全・安
心な労働環境の整備、女性の参
画とリーダーシップの機会の確
保、次世代の教育の質の向上など



法の支配の促進、説明責任をもつ透明性の高い組織の発
展、ステークホルダーを重視した意思決定、産・官・市民社
会のパートナーシップの推進など



だれもが利用しやすい持続可能な公共交通や公
共スペースの充実、持続可能で災害に強いインフ
ラの質の向上など



持続可能なライフスタイルの普
及、文化多様性の理解促進・教
育、地域の文化振興・持続可能な
観光、イノベーションの促進など



気候変動に対する強靭性と適応力の
強化、エネルギー効率の改善、再生
可能エネルギーの拡大、廃棄物発生
の抑制・リサイクル、食品ロスの低減
など

ご清聴ありがとうございました



＜お問合せ先＞

阪急阪神ホールディングス株式会社

人事総務室 サステナビリティ推進部 相良 有希子

TEL : 06-6373-5086/MAIL : sagara-yukiko87@hankyu-hanshin.co.jp

※本資料の写真の無断利用はご遠慮ください